

令和 4 年 10 月 17 日

職員各位

市 長

令和 5 年度予算編成における基本的な考え方

私が市長に就任し、皆さんとともに「龍ヶ崎市の新時代を創りたい」と訓示をしてから 9 か月が経過しました。この間、職員の皆さんの真摯に職務にあたる姿はもとより、ワクチン接種をはじめ、先の見えない新型コロナウイルス感染症への対応や容赦なく襲ってくる自然災害など緊急を要する対応などにおいて、休日・昼夜を問わず市民のために奔走する姿勢を幾度となく目にし、頭が下がる思いでいます。皆さんとともに、龍ヶ崎市の新時代を切り開いて行きたいと改めて感じるとともに、その先頭に立って、私自身が行動をしていく決意を新たにしました。

これから、令和 5 年度の予算編成が始まります。令和 4 年度は、市長に就任して間もなく、新型コロナウイルス感染症の影響が続く状況から、新保健福祉施設及び新長戸コミュニティセンターの建設に係る予算を除き、市民生活への影響を最小限に留めることを念頭に、これまでの事業を円滑に進めることを優先した予算編成としましたが、今回は、スタート段階から予算編成に取り組むことができます。私の思いを皆さんに共有していただき、一つでも多く反映をしたいと考えています。

現在、まちづくりの方向性を示した最上位計画である「龍ヶ崎みらい創造ビジョン for2030」の策定作業が大詰めを迎えています。この計画では、政策の柱のもと、各分野に新規・拡充事業を位置付ける予定であり、龍ヶ崎市の新時代に向けた取組の第一歩となります。人口減少にコロナ禍もあり、税収をはじめとした歳入環境は厳しい見通しです。このような中、重要施策の財源を捻出するには、現状維持は退歩であるとの考えのもと、前例踏襲を排除し、日々変化する市民ニーズを捉えているのか、コロナ禍の教訓は活かされているか、費用対効果は十分なのかなどあらゆる視点から事務事業の再点検を行い、選択と集中を進めたメリハリの効いた予算編成としなければなりません。

就任後、補正予算を編成する中で、法律や財源の制約や幅広い調整事項などに直面し、事業の立案から予算化に至るまでの道のりが長く、事務事業の中止・縮小は相当なエネルギーを要することは理解しています。

市政に関し、最終的に決断し、その責任を負うのは私自身です。各部課等の長を中心に皆さんの英知と経験を結集し、十分な議論を重ねたうえで変化を恐れず思い切った予算編成をしてください。「龍ヶ崎みらい創造ビジョン for2030」元年に相応しい予算となることを確信しています。